



内需の回復で、直近のピークである2008年レベルの92%にまで戻し、前年比の増加率は1967年の30.1%以来最大となった。

財務省が発表した12月の鉄鋼貿易統計によると、輸出（全鉄鋼）は前年同月比4.0%減（前月比11万トン増）の366万1,000トンとなり、再び前年割れになったものの、前年12月が過去最高だった反動が表れた。輸入は同21.9%増の55万2,000トンと12カ月連続で前年を上回った。その結果2010年の鉄鋼貿易量は、輸出は前年比25.9%増の4,299万7,000トンと初の4千万トン台に入った。輸入は同57.6%増の692万6,000トンであった。国・地域別輸出では、主力のアジアNIE's向けが同12.8%増の1,612万8,000トンと伸びたほか、中国向けが同16.0%増の742万2,000トン、ASEAN向けは同47.0%といずれも好調だった。アジア以外では米国向けが同30.1%増の142万1,000トン、中東向けが同17.5%増の140万8,000トン、EU向けが同62.9%増の57万トン、ロシア向けが同8.2倍の27万5,000トンだった。地域別輸入は、アジアNIE'sからが同43.4%増の351万トン、中国からが同83.3%増の130万7,000トン、ロシアからが同2.1倍の34万2,000トンだった。

### ◆ 1～3月期粗鋼生産、2,688万トン——経産省見通し

経済産業省が策定した2010年1～3月期鋼材需要見通しによると、需要量相当の粗鋼生産は2,688万トンで、10～12月期に比して79万トン、2.0%少ない水準に止まった。鋼材需要のうち、国内は前期比1.6%減（25万トン）と2期連続の減少となった。建設は冬場の不需要期から前期比7%程度減少するが、製造業は決算期を迎えて需要が伸びる傾向をもつ。自動車エコカー補助金終了で減少した前期から回復し、建設機械や産業機械は好調を持続する。一方、輸出はアジア向けを中心とした旺盛な海外需要から円高に抗して前期比3.4%増え、2期連続して増加する見通しとなっている。その結果、鋼材需要は同0.2%増の2,422万トンと2期ぶりの増加を見込んでいる。しかし、同省は増加傾向をたどっている鋼材・半製品在庫の調整を織り込んだ結果、やや低めの生産レベルが事実上の需要水準に見合うと判断している。この粗鋼需要見通しを織り込むと、2010年度の粗鋼生産量は前年比14%、1,300万トン増の1億1,300万トンとなり、2年ぶりのプラスとなる見通しとなっている。

### ◆ 鉄鋼原料価格、上伸

先月号で日本の高炉大手と鉄鉱石、原料炭などの主要山元との間で2011年1～3月積み価格交渉がほぼ決着した（鉄鉱石は前期比8%上げでトン当たり137ドル、原料炭は同7.7%上げで225ドル）ことを紹介したが、最近供給不足から鉄鋼原料のスポット価格が急速に上伸している。2010年末に豪州クイーンズランド州など東部の原料炭主要産地を襲った豪雨（平均の約4倍）で、主要山元は出荷を維持できないとして年末までに相次いで不可抗力宣言を出した。雨は年末に降り止んだが、1～3月には例年サイクロン（熱帯低気圧）が発生するので被害が広がる恐れがある。

日本の高炉大手は、生産障害が顕在化した12月末から1～3月に向けて米国、ロシア、インドネシアなどからの代替手配に入り、豪州の出荷停滞が長期化する場合に備えた。米炭などの緊急手配により、価格は1～3月期の契約価格の225ドルを上回っており、豪州の供給障害が早くも価格に反映し始めている。業界では4～6月の契約価格の上昇は確実との見方が出始めている。一方、鉄鉱石についても思惑買いが膨らんでおり、1月半ばくらいから中国向けのスポット価格が続伸している。天候不順による影響もあるが、主要輸出国のインドで輸出規制強化の動きが出ているのが、懸念材料となっている。2010年のカ

表1 世界鉄鋼協会の粗鋼生産速報

| (単位:千トン、前年同月比・前年同期比%, Eは推定) |                |                |                  |                |
|-----------------------------|----------------|----------------|------------------|----------------|
|                             | 10年12月         | 前年同月比          | 1~12月            | 前年同期比          |
| フランス                        | 1,126          | ( 2.2)         | 15,416           | ( 20.1)        |
| ドイツ                         | 3,162          | ( 4.6)         | 43,815           | ( 34.1)        |
| イタリア                        | 1,943          | ( 31.6)        | 25,751           | ( 29.7)        |
| スペイン                        | 1,044          | ( 0.5)         | 16,311           | ( 13.6)        |
| イギリス                        | 661            | (△32.1)        | 9,709            | (△3.7)         |
| <b>EU27カ国計</b>              | <b>12,953</b>  | <b>( 8.4)</b>  | <b>172,906</b>   | <b>( 24.5)</b> |
| トルコ                         | 2,764          | ( 26.5)        | 29,002           | ( 14.6)        |
| <b>他欧州計</b>                 | <b>3,090</b>   | <b>( 23.9)</b> | <b>33,079</b>    | <b>( 15.2)</b> |
| ロシア                         | E 5,915        | ( 7.4)         | 67,021           | ( 11.7)        |
| ウクライナ                       | E 3,050        | ( 10.9)        | 33,559           | ( 12.4)        |
| <b>C I S計</b>               | <b>9,640</b>   | <b>( 8.5)</b>  | <b>108,425</b>   | <b>( 11.2)</b> |
| カナダ                         | E 1,100        | ( 16.6)        | 12,990           | ( 39.9)        |
| メキシコ                        | E 1,570        | ( 21.9)        | 17,041           | ( 22.1)        |
| アメリカ                        | 6,748          | ( 15.1)        | 80,594           | ( 38.5)        |
| <b>北米計</b>                  | <b>9,515</b>   | <b>( 16.2)</b> | <b>111,798</b>   | <b>( 35.7)</b> |
| ブラジル                        | 2,407          | (△6.7)         | 32,820           | ( 23.8)        |
| <b>南米計</b>                  | <b>3,431</b>   | <b>(△4.1)</b>  | <b>43,775</b>    | <b>( 15.9)</b> |
| <b>アフリカ計</b>                | <b>1,556</b>   | <b>( 14.3)</b> | <b>17,151</b>    | <b>( 15.8)</b> |
| <b>中東計</b>                  | <b>1,658</b>   | <b>( 21.1)</b> | <b>18,980</b>    | <b>( 11.3)</b> |
| 中国                          | 51,524         | ( 6.3)         | 626,654          | ( 9.3)         |
| インド                         | E 5,610        | (△1.8)         | 66,848           | ( 6.4)         |
| 日本                          | 9,173          | ( 2.5)         | 109,600          | ( 25.2)        |
| 韓国                          | 5,591          | ( 24.3)        | 58,453           | ( 20.3)        |
| 台湾                          | E 1,730        | ( 4.2)         | 19,641           | ( 24.2)        |
| <b>アジア計</b>                 | <b>73,628</b>  | <b>( 6.2)</b>  | <b>881,197</b>   | <b>( 11.8)</b> |
| <b>オセアニア計</b>               | <b>686</b>     | <b>( 5.3)</b>  | <b>8,149</b>     | <b>( 35.5)</b> |
| <b>66カ国計</b>                | <b>116,157</b> | <b>( 7.8)</b>  | <b>1,395,459</b> | <b>( 15.2)</b> |

ルナタカ州に続いて東部のオリッサ州が輸出規制を検討しているとされ、規制が始まれば鉄鉱石市場への影響は大きく供給不安は一挙に高まる恐れがある。

さらに、電炉鋼の主原料である鉄スクラップも海外における寒波の影響で、世界的に需給が逼迫している。米国スクラップのトルコ向け輸出がトン当たり500ドルを突破するなど年明けに価格が急騰し、日本の関東鉄源協同組合が1月中旬に行った鉄スクラップの輸出入札価格は、トン当たり3万8,600円(FAS)と前月比5,430円上昇した。電炉メーカーが購入している1月の炉前価格は3万6,500~7,500円だが、値上げは必至といわれている。

このような原料価格の急速な上昇によるコストアップを鋼材販売価格に転嫁することには時期的なズレがあり、高炉及び電炉企業の2011年3月期業績を下方修正する動きが出てきている。高炉企業は中間決算時点の経常利益見通しを新日鉄は2,500億円から2,200億円へ、JFEホールディングスは2,200億円から1,700億円へと下方修正した。また、電炉最大手の東京製鉄は10億円の経常益から80億円の経常赤字に修正した。

#### ◆2010年世界粗鋼生産、初の14億トン

世界鉄鋼協会がまとめた2010年(1~12月)の世界粗鋼生産量は、前年比15.0%増の14億1,360万トン(66カ国では同15.2%増、13億9,546万トン)となり、3年ぶりに過去最高を更新し、初の14億トンに乗せた。中国が約9%増加したのに加え、日本や欧州、米国など先進国も金融危機以降の生産減から回復した。アジアの生産量は中国の増加などを反映し、同11.6%増の8億8,789万トンと拡大し、世界全体に占める比率は64%に達した。このうち中国は同9.3%増の6億2,665万トンで全体の44%を占めた。国別の生産量をみると、中国に次ぐ2位は日本(1億960万トン)で、米国(8,059万トン)、ロシア(6,702万トン)、インド(6,085万トン)、韓国(5,845万トン)となっている。なお、EU27は1億7,291万トンとなっている。なお、2010年12月の世界の粗鋼生産量(66カ国)は1億1,616万トンで、前年同月比7.8%増、前月比1.3%増であった。 □